令和2年度 磐田市立竜洋西小学校 学校評価書

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	○考察 ※改善策	学校運営協議会委員から
友達と本気で考える子	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが課題解決したくなるような問題提起をする。 対話を生み出す授業展開を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが何を学ぶか分かっているか。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○児童評価は、91.5%であった。 ○「押さえる」「仕掛ける」「確かめる」の授業の流れを意識し、「押さえる」を確実にやってきた成果であると考え。 ○子どもにとって魅力的な学習課題が提示されているかという点においては、今後教師のさらなる研修が必要であると考え。 ※子どもや教師の実態から、今までの研修を見直し、課題を焦点化する。 ※ICTの活用を研修の中に組み入れ、効率的・効果的な研修を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年の発達段階に応じた指導がされていて、子どもたちが集中して授業に取り組んでいる。 ○子どもたちの発表を見ていると、理由を付けて自分の意見を述べている姿があり、日ごろから考えることを大切に授業を行っていることが分かった。
		<ul style="list-style-type: none"> 友達の話を聞いて考え、自分の考えを伝えているか。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○児童評価は、86.4%であった。 ○本年度は感染症蔓延によりグループ学習やペア学習などを制限することもあったが、それにより様々な「対話」の方法について検討することで、教師がより深く「対話」について考えることができたと考え。 ○個々の教師が「対話」として行っている場面を見ると「なぜ対話が学習に必要なのか」について、深く考えられていないと考える。 ※「学習科学」の知見を活用しながら、校内研修において、まず「対話」についての理論的な内容について研修を進めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちにとって、身近なことが学習課題になっていくと、よりよい授業が行えると感じた。
自分も友達も大切にしている子	<ul style="list-style-type: none"> 児童の表れに寄り添い、よりよい方法を共に考える。 児童同士のかかわりを深める学級・学年経営をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で考えて、正しい行いができているか。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○児童評価は、84.0%であった。 ○本年度は大きな問題行動もなく、安定した学校生活が送れたと考える。 日常生活の中で、様々な失敗をした子どもたちが、教師と共によりよい方法を考え、次の行動につなげていった成果であると考え。 ※トラブルを未然に防ぐための「前始末」だけでなく、トラブルをどのように解決するか「後始末」について、教師の生徒指導の資質・能力の向上を図る。 ※トラブルの傾向を分析し、教師が情報共有したり、児童の情報を整理し、効果的なタイミングで教師に情報発信する方法を検討したりすることを意識して、教育課程の中に活動を計画的に組み入れていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度に比べて、挨拶ができる子が多かった。 ○清掃が黙働で行われていて、年々清掃する姿が立派になってきている。 ○コロナ禍であり、新しい生活様式での学校生活であったと思うが、子どもたちにはそれらの環境に柔軟に対応できる人間力を培ってほしい。
		<ul style="list-style-type: none"> 思いやりの心をもって助け合っているか。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○児童評価は、88.3%であった。 ○本年度は感染症蔓延により児童同士の間違ったかかわりを制限することもあったが、そのような状況であっても、何ができるのかを子どもと教師が共に考え、実行してきたことで安定した学級・学年経営がされたと考え。 ※教師が主体となるだけでなく、子ども自らが主体となり、学級や学年のかかわりを深める活動を企画・運営していくようにする。 ※みんなにとって「楽しい学校」を築くために、教育課程の中で委員会活動を計画的に組み入れ、創造的な活動が子どもたちの力でできるようにしていきたい。 	
明るく元気に生活している子	<ul style="list-style-type: none"> 遊びたくなる場や時間を設定する。 養護教諭や栄養職員と連携して指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動や遊びに親しんでいるか。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○児童評価は、83.0%であった。 ○朝の時間、昼休み(ロング昼休みを含む)には、多くの児童が外に出て、仲間と楽しく遊んでいた。 ○教職員評価から意図的に遊びの場を設定している割合は少なかった。 ○体を動かすことが、本校の児童において習慣になっており、本校の児童の良さであると考えられる。 ※ただ体を動かす機会として運動や遊びを捉えず、運動や遊びを通して人間関係づくりができるように、3間(時間・空間・仲間)を意識した教育課程編成を行っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちが外で元気よく遊んでいる姿が見られ、よかった。先生方も子どもたちとよく遊んでくれていて、とてもよい雰囲気である。 ○コロナ禍であり、様々な行事が今まで通りできなかった中で、先生方が工夫をしてくれて、行事を着々とこなしてくれてよかった。
		<ul style="list-style-type: none"> 健康や食に関心をもっているか。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○児童評価は、86.5%であった。 ○本年度は感染症蔓延予防のため、養護教諭が中心となり、充実した保健指導ができたと思われる。 ○体育的な行事に向けた取組の中で、養護教諭や栄養職員がその専門性を生かし、健康な心と体づくりのための情報発信をすることができた。 ※養護教諭や栄養職員との連携は、意図的に計画していくことで、活動がより充実すると考えられる。来年度も体育的な行事に意図的にかかわることができるように、教育課程の計画の中に組み入れていくようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○マスクの着用、手洗い等、感染症予防の取組がしっかりできている。

深い子ども理解	・授業力を高める。	・教師は、「子どもの学習状況を的確に把握し、付けたい力を明確にすることによって学力の向上を図る」ことができているか。	B	○児童評価「授業の内容がよく分かる」が90.1%であった。 ○教職員評価の「子どもたちは当該学年の学習内容を理解していますか」が79%であった。 ○子どもの学力の定着度において、教師の手応えと子どもの「分かる」に少しずつがあると考える。 ※ICTを活用しながら、子どもの学習の履歴を考慮しながら学習を進め、確かな学力が定着するように、「分かったつもり」になっている子どもについて、個別の指導の充実を図っていききたい。	○2回目の学校運営委員の授業参観のときよりも、3回目は若い先生方が自信をもって授業を行っている感じがした。若い先生方の成長が見られてよかった。
	・生徒指導力を高める。	・教師は、「子どもの心をつかみ、理解を深める。(言葉から、行動から、表情から)」ことができているか。	B	○児童評価「学校が楽しい」が、86.1%であった。昨年よりも数値が上昇した。 ○生徒指導上の問題行動も減少し、落ち着いた学校生活を送ることができた。 ○先を見通し、計画的に積極的な生徒指導を行った成果であると考え。 ※教職員評価の「個に応じたきめ細かな支援・指導ができていますか」が91.0%であった。個に応じた指導と同時に、全体指導の充実を図っていくことができるように、教師が押さえていきたい指導の重点を整理し、共通理解を図っていききたい。	○全体的に学校の中が落ち着いている。先生方の日頃の指導のおかげであると思う。 ○自己評価が「B」になっているが、これだけ落ち着いているのであれば、「A」でもよいのではないか。また「B」とした場合、その課題について来年度さらに力を入れて取り組んでいってほしい。 ○先生方は多忙であると思われるので、子どものケアと同時に、先生方のケアもお願いしたい。
安全・安心の保証	・集団登校は、安全に問題なく行われているか。	B	○保護者評価は、80.5%であった。 ○今年度は感染症蔓延のため、全校で集まって交通安全教室を行うことができず、各学年で時間を取って行った。 ○定期的に放送や帰りの会等を使って、交通安全についての呼びかけを意識して行い、児童の安全な登下校に対して効果を上げることができたと考え。 ※子どもたち自らが安全について意識して行動できるようにしていきたい。そのために、町別児童会、交通安全リーダーを語る会の内容の検討をし、特に交通安全リーダーの育成を重点に指導していききたい。	○例年課題となることであるが、通学班で上手く集団になじめない子どもが少し見られる。 ○コロナ禍で、交通安全教室が例年通り行うことができなかった中で、工夫して時間を取り、子どもたちへの指導を行ってくれてよかったと思う。	
地域とともにある学校	・子どもを守り育てる喜びと希望を学校と地域が共有し、学ぶ楽しさと意味を実感できる教育を地域とともに推進しているか。	A	○児童評価の「今住んでいる地域の歴史や自然について関心がある」が73.6%であった。 ○教職員評価の「子どもたちは地域の人たちと学校や地域で関わっていますか」が78%であった。 ○保護者評価の「お子さんは家庭や地域であいさつができる」が80.8%であった。 ○本年度は感染症蔓延のため、様々ななかかわりが制限される中で、地域の方々の様々な創意工夫のおかげで、地域とともにある学校についての評価はどれも70%以上の高い評価を得ることができた。 ※本年度は教頭を中心に、学校運営委員会の委員の方々やCSCと連携し、地域の方々の力を学校運営に反映することができた。コロナ禍ではあるが、来年度も継続して学校と地域が連携できる取組を各学年の年間計画に位置付けるようにする。 ※本年度の取組を振り返り、新しい生活様式の中での新たな取り組みについて考え、カリキュラムマネジメントを推し進めていくようにしたい。	○先生方の対応の素早さに感謝している。先生方から適切な指導があると、次の日すぐに子どもたちの行動が変わる。地域として本当に助かっている。 ○先生方に子どものことについて相談すると、管理職の先生をはじめ、多くの先生方が、自分の学級の子もだけでなく、様々な子どもの名前もしっかり覚えてくれている。一人ひとりの子どもを大切にしてくれている感じがしてとてもよい。	
学校関係者評価を受けてのまとめ					
学校運営協議会での話し合いを行い、運営協議会委員からも学校での取り組みへの高い評価をいただいた。学校運営協議会委員からも言われたように、「学校は地域の心臓部」という意識をもち、変わっていく時代の中で、常に何が必要かを考え、学校運営をしていきたい。また、今後地域の中で活躍できる子どもたちを育てていくために、ランドデザインをベースに、教職員、学校運営協議会委員、地域、外部機関が、同じ方向を向いて、学校教育目標「えがお かがやく にしのこ」の実現を目指していききたいと思う。					